

市長発言要旨

【発表事項】

① 令和7年度米沢市立病院事業会計決算における資金不足の発生について

米沢市立病院の経営状況、それに対する今後の市立病院、本市の対応、考え方について説明いたします。

米沢市立病院は令和7年度決算で、赤字などの資金不足額の営業収益に対する割合である「資金不足比率」が大幅に上昇し、15%弱となりました。病院経営の健全性を示す、資金不足比率が10%を超えるまで悪化したのは、昭和33年の創設以来は初めての事態であります。

(地方財政法による資金不足比率が10%を超えると)、病院が起債して資金を調達する場合、これまでの県との「協議」から、県知事の「許可制」に変わり、資金不足等解消計画を策定したうえで、許可を得ることが必要になります。いわゆる経営再建団体には至っていないものの、経営状況についてのいわば黄色信号が点滅している状態といえます。

病院が新しくスタートして2年余りで、資金不足比率が10%を超える状況になったことは、非常に重く受け止めております。独立会計の病院経営であります、市民の命・安心を守る病院は市の要でありますので、経営の立て直しに向け、市を挙げて取り組んでまいります。

市立病院は三友堂病院と機能を再編し、市立病院が主に急性期医療を担い、三友堂が回復期医療を担うこととし、令和5年11月に両病院が一体的な建物として、総額155億円の建設費を投じて新病院として開院しました。しかしながら、当初から病床の稼働率が建設時に予測した水準を下回り続け、一般会計からの市立病院への繰り出し額が増え続けるなど、厳しい状況が続いております。

企業会計で独立した運営の市立病院ではありますが、私も強い危機感を抱き、昨年10月には市長の私をトップとする「市立病院経営改革タスクフォース」を設置し、医師、病院事務方、市長部局、市長部局と合同で、市立病院の経営の現状、課題、解決策についての検討を重ねてまいりました。

この結果、新病院の建設時に合わせて策定した現在の「経営強化プラン」で掲げた経営目標達成は困難であり、経営の抜本的な改革が必要と判断したところです。今年4月には酒井雅彦・前山形県健康福祉部長を病院事業管理者として招聘するなど、病院事務局人事の大幅刷新を行い、さらにはNPO法人・病院経営支援機構に経営力強化に向けたプランの策定・コンサル業務を委託し、病院と一体となった改善に着手しているところであります。

物価・人件費の急上昇、コロナ補助金の打ち切り、人口減少など背景に、大病院、とくに急性期医療の経営が全国的に急速に悪化しております。診療報酬の改定もありましたが、7年度決算では上がっておらず、全国の公立病院の約8割が赤字に陥っていると言われております。

とくに、米沢市立病院の場合、新病院建設費、特に機械設備の償却負担が重いという事情もあります。しかしながら、そうした事情を勘案しても、業績が他の県内の病院に比して急激に悪化している大きな要因は、新病院の経営に関する構造的な課題がある、というのがタスクフォースの結論です。

第一に、建設時に策定した「経営強化プラン」の見通しが不十分であった点であります。収入において92%の稼働率を設定しているものの、開院当初から目標を下回る状況が続いています。経費も大幅に増加、経常収支比率はR7年度目標値98・5%に対して、実際には90・5%。医療収支比率も目

標値 90・1%に対して 82・5%となっています。急性期を中心とした結果、人工透析など安定した収入源を失い厳しい状況です。経理上で見える限り、現時点では、建設当初に想定していた両病院の統合した大きなプラス効果は出ているとは言い切れず、経費の負担が増えるなどマイナス面が表面化しているが現状です。昨年 10 月のタスクフォース設置以降、機材の共同購入の拡大などを急ピッチで進めています、まだ道半ばであります。

第二の要因は、新たな市立病院の「使命」の未徹底であります。市民や患者に寄り添うのが市立病院の立ち位置であり、民間病院との役割分担のなかで急性期医療を軸とする新病院のミッションは、「365日24時間、救急患者を受け入れること」であったはずです。多くの現場のドクター、看護師、職員は懸命に職責を果たしております。しかし、過去において、救急患者の対応について機関との連携不足や、必ずしも適切と思えない事例もあったとの報告も受けております。

4 月以降、改善しているとの報告を受けておりますが、これまで以上に、市民目線で、市民に寄り添い、頼られる病院に徹することが再建への道であります。

市立病院は、米沢市民、置賜の安全・安心、健康と命を守る要であります。今年度も厳しい状況が続いており、抜本的な改革を実行しない場合はさらに資金不足がさらに悪化する状況です。現状のままでは、厳しい対応を余儀なくされる資金不足比率 20%を超える可能性があり、この事態は何としても避けなければいけません。

市立病院の施設は最新です。看護部も研究熱心であり、質の高い医療を提供しています。必要な改革を進めれば、置賜・米沢の中核拠点病院として経営を立て直すことは十分可能であるとの認識であり、この認識は病院管理者と一致しております。再生に向け、本市としては今後 3 年が極めて重要な時期という認識です。市当局としても、市民の安全・安心を守るため、病院の経営改善を全面的にバックアップしてまいります。また、医師会はもとより、県、国のご指導もいただきながら、再生を期してまいります。市としては必要に応じて、財政的な措置、すなわち一般会計の病院会計への繰入額の増額など、適時・適切に対応してまいります。